

第二次中期計画（2021～2025）

～次世代に向け飛躍するKAETSU～



学校法人 嘉悦学園

理事長メッセージ

嘉悦大学とかえつ有明中・高等学校を設置校とする嘉悦学園は、1903年（明治36年）に嘉悦孝が「女子にも経済教育を授ける」という崇高な理念に基づいて創立して以来「怒るな働け」を校訓に、120年の歴史を刻んできました。これを踏まえ、2018年度の第一次中期5ヵ年計画に続き、2021年度には第二次中期5ヵ年計画に改定して実施に移しました。経営体制の改革こそが、持続可能な学園を生み出す原動力になると判断したからです。

近年、社会は大きく変化しています。具体的には①突然見舞われたコロナ禍②デジタルトランスフォーメーション（DX）など急テンポで進むデジタル社会の到来③子供の出生数が79万人余まで減り、この赤ちゃんたちが小学校に入学する時は、今より約20万人も減少する急激な少子化—などがあげられます。嘉悦学園はこれに対処するため、第二次中期計画に基づいた教育を推進しております。各設置校の取り組みを紹介します。

嘉悦大学では、ICT・データサイエンス教育プログラムが2021年、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に、翌22年にも同プログラムの「応用基礎レベル」に認定されました。これは、政府の重要政策である「AI戦略2019」に基づくもので、本学のDX教育が評価された結果といえます。このプログラムは第二次中期計画の中心教育として続けてまいります。

対話をベースとした探究的学びなど、先駆的な教育で各方面から評価を受けているかえつ有明中・高校でも、さらに一歩進んで「生徒の自主性を重んじ、教師と生徒が共に学ぶ教育」を推進しております。ICTを駆使した多様な授業はむろんのこと、他の団体と共同で「社会総合・生物基礎・プロジェクト科」の教科横断型の授業を実施し、その成果を発表することで探究心を高めています。また、世界各国の生徒と「オンライン国際交流」を実施し、友情を結んでいます。特徴的なのは、先生同士の交流も実現させていることです。お互いの教育に対するスキルアップに寄与させるのが狙いです。こうした取り組みにより、総合型選抜で上位大学への合格ばかりか、海外大学に留学する生徒も増えてきました。

嘉悦学園が目指すものは「教育の質の保証」です。第二次中期計画の後半でも、これを旗印にした経営を加速させるため、かえつ有明中・高校に「アートをコンセプトにした教育」を主眼とした新校舎建設するなどして、学生・生徒をはじめ、保護者、卒業生の皆さまなど全てのステークホルダーに評価されるよう全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

理事長 植村 裕之

学長メッセージ

嘉悦大学は、創立者嘉悦孝先生によって1903年に設立された「私立女子商業学校」を起源とします。2023年は創立120周年を迎える記念すべき年にあたります。本学は、120年にわたり、校訓「怒るな働け」のもと、「広い視野と寛容な心で公の精神を発揮し、より良い世界を創り出すため、自立と尊厳をもって主体的に行動できる社会人・職業人」の育成を教育目標に、時代を先取りした先進的な実学教育を展開してきました。

第2次中期計画は2021年度よりスタートしましたが、これまでの2年間に、就職率の大幅な改善による「就職の嘉悦」の復活など、大きな成果をあげてきました。2023年度も引き続き中期目標の達成に向けて更なる努力をしていきます。特に、2023年度は経営経済学部の新カリキュラムがスタートします。学生が様々なことに挑戦し「成長実感」を持てる教育、学生が自信をもって社会へ出ていける教育、学生が卒業後も持続的に成長できる基盤を築く教育、つまり真の実学教育の実現を目指します。また、2023年度には「対面授業」が本格的に再開します。「教員と学生の距離の近い嘉悦」、「面倒見の良い嘉悦」の本領を発揮し、学生が対面授業への適応で躓くことのないように十分な配慮をし、学生目線を忘れない教育を展開していきます。

嘉悦大学 学長 森本 孝

校長メッセージ

2023年4月1日より新しく校長に就任した石川です。第二次中期計画の中間にあたる本年は前嶋正秀前校長が推し進めてきた教育理念「生徒一人一人が持つ個性と才能を生かして、より良い世界を創り出すために主体的に行動できる人間へと成長できる基盤の育成」を第一に掲げて参ります。更に対話を重視した教育、「共感的コミュニケーション」を推進することを目標といたします。人を否定したり攻撃したりする対話とならないよう、安心安全の人間関係の構築を目指します。

大学入試改革への対応、帰国生へのサポート強化、質の高い生徒の確保等については従来通り、教職員と共に進めます。校長として中期計画の遂行に努める所存です。

かえつ有明中・高等学校 校長 石川百代

I. 第二次中期計画のビジョン



II. 第二次中期計画の重点目標

『嘉悦の実学教育』の一層の充実

- 学生・生徒が入学から卒業、さらに卒業後も成長できる実学教育
- DX推進による次世代型教育を提供し、教育の質の向上を図る

教職員の働きがい・エンゲージメントの向上

- 教職員の世代バランス改善による若手・中堅の育成を図る
- 教職員が充実した毎日を感じながら働ける職場環境の整備

財務体質・ガバナンスの強化

- 黒字基調を継続し、健全な財務体制を構築
- 新型コロナ対応など危機管理への臨機応変な体制の構築

III. 建学の精神・教育理念

校訓「怒るな働け」

校訓「怒るな働け」は実学思想を基礎とし、個人的処世術にとどまらず、横井小楠先生の説かれた「堯舜孔子の道を明らかにし、西洋器械の術を尽す、何ぞ富国に止まらん、強兵に止まらん、大義を四海（世界）に布くのみ」という抱負から発し、「怒るな」は人間の和、さらには平和を、「働け」は人間社会に欠くことのできない財の生産を意味する世界観、人生観で、世界平和を窮極の目的とした一大金言であって、本学園の伝統をもっとも端的に表現した深遠の哲理であるといえます。

教育目標

広い視野と寛容な心で公の精神を発揮し、より良い世界を創り出すため、自立と尊厳をもって主体的に行動する人材を育成する

教育方針

全教職員は、学生・生徒の人格形成も含めたきめ細かい教育指導を通じ、学ぶことの大切さと喜びを教え、卒業後の社会でも誇りと自信を持って生き抜く力を育てていく

嘉悦大学

1. 社会人として成長するための基礎力を修める
 2. 実学、実務、実践を学ぶ
 3. 自創、自律、共創および公の精神を涵養する
- を学修の基本とし、社会の発展に自ら貢献する人材を育てる創造的な実学教育の実践

かえつ有明中・高等学校

1. 学び方を学ぶ
 2. 自分軸を確立する
 3. 共に生きる
- を学習の基本とし、知識と資質・能力を身につける教育の実践

IV. 嘉悦大学、かえつ有明中・高等学校、学園全体・法人の施策

	学生生徒にとって魅力ある嘉悦	教職員にとって夢のある嘉悦	社会から信頼される嘉悦
大学	<ol style="list-style-type: none"> 1 新カリキュラムの策定による新しい時代に対応した創造的実学教育の実現 2 社会人として成長し続ける力をつけるキャリア教育の推進 3 学生に寄り添った学生支援の充実 4 学生増と学生のニーズの多様化に対応した人材の確保とキャンパスの整備 5 DX*やパンデミックに対応した教育・研究環境の整備 <p>*DX=デジタルトランスフォーメーション</p>	<ol style="list-style-type: none"> 7 大学内の組織改革  	<ol style="list-style-type: none"> 6 「質」を重視した入学者選抜の強化 8 大学広報の充実 9 社会や地域への貢献 
中高	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICTによる多様な授業デザイン構築と新カリキュラム策定 2 生徒増に対応する教育環境整備 	<ol style="list-style-type: none"> 3 部活動改革の推進 4 教員研修制度の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 5 SDGs、社会教育の実現  
学園全体・法人	<ol style="list-style-type: none"> 7 中期計画を達成するためのPDCA体制の確立 	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員の人事評価制度の導入 2 働き方改革の推進 3 教職員の成長を支援する制度の導入 5 既存業務見直しによる業務効率化推進 	<ol style="list-style-type: none"> 4 ガバナンス強化と規程・ルールの整備 6 災害・パンデミック等危機管理体制の強化

※大学（大学院含む）の中期計画については、認証評価において指摘された改善事項等を踏まえ、作成しています。次回認証評価、新カリキュラム導入に合わせ、一部を見直す予定です。